

部署紹介

危機管理室

室長

兼救命診療科部長

成田 麻衣子

危機管理室の設置

当センターは、地域の中核病院として、地震や津波、台風、航空機事故、テロ（CBRN等）、サイバー攻撃などあらゆる危機に対して、日常からの予防的な対応も含め、有事には迅速かつ的確な対応をとり、院内外の機関と連携しながら業務（＝診療）継続を行う必要があります。そのため、2023年4月に「危機管理室」が設置されました。2024年3月現在は、常勤1名（危機管理室長）、非常勤1名、兼任者7名の体制で活動しています。



▲立ち上げ時のメンバー

危機管理室の業務概要

「危機管理」とは、一般的に、非日常的な危機事態に対して組織がとる対策と手順全般を言いますが、この中には、Risk ManagementとCrisis Managementがあり、それぞれ、未然防止と発生時対応を意味します。

危機管理室は、Risk ManagementとCrisis Managementともに行う必要があり、平時には、院内外の事業継続計画（Business Continuity Planning、以下、BCP）および対応マニュアルの整備、他機関他施設との連携体制の構築を行い、有事の際には、院内の対策本部のサポートや代表窓口などを担います。

危機管理室の業務内容の詳細

1. 院内外のBCPおよび各種マニュアルの整備

当センターは前述したように、どのような危機が発生し

ても、地域の拠点病院として、業務（＝診療）継続を行う必要があります。そのために、危機管理室では、全ての危機に対応できるような（オールハザード対応の）BCPの作成や更新、対応人員の育成と管理、マニュアルなどの整備、院内外における災害教育・訓練企画・院内周知などを行っています。

2. 他機関・他施設との連携体制の構築

当センターは、危機発生時に迅速かつ的確な応急対応が実施できるよう、平素から行政や関連機関等と連携を密にし、協力体制の強化に努める必要があります。

そのため、危機管理室は、泉佐野保健所管内健康危機管理関係機関連絡会議に参画し、泉州南医療圏における危機事態に対するの対応策や連絡体制の検討を行い、有事の際には迅速的確な情報共有を行えるように多機関・多施設連携の強化を図っています。また、関西国際空港緊急計画やKIX-JCMG（Joint Crisis Management Group）、関西国際空港総合対策本部への参画をはじめ、消防・警察・海上保安庁などへの講演会の実施や合同訓練の企画立案を通して、有事の際の医療連携体制強化を図っています。

3. (有事の際の)院内対策本部のサポート

当センターは、危機の規模や被害等が拡大し病院全体の対応が必要な場合に、対策本部等の組織体制に迅速に移行するなど、状況に応じた対応を行う必要があります。危機管理室は、そのような際に、院内外の情報収集・連絡体制の確保などの院内対策本部のサポートや代表窓口を担い、加えて有事の際の対応記録の保管を行っています。



▲台風接近時の対策本部会議の様子

2023年度の成果

2023年度は、危機管理室の立ち上げの年であり、まずは、病院組織全体の危機意識の醸成と危機管理能力の向上を目的として、「危機管理指針」を作成しました。

また、サイバー攻撃などによるシステム障害発生時の危機管理体制の強化のために、医療情報システム管理者ワーキンググループを立ち上げ、サイバーセキュリティに関する院内教育や訓練、システム障害時の連絡体制の構築、および、電子カルテ使用不可時でも診療継続ができるような紙運用マニュアル作成などを行いました。



▲システム障害発生時の対策本部訓練

課題と展望

当センターは、まだ、地震に対するBCPしか備えておらず、全ての危機（オールハザード）に対しての備えができていないとは言えない状況です。今後は、地震以外のあらゆる危機に対してのBCPを作成し、さらにその実現に向けた院内体制の構築を行います。さらに、危機発生時でも住民の皆様へ医療の提供が継続できるよう、より一層の多機関連携の強化と地域全体の減災対策に貢献できるように努めてまいります。

Profile



成田 麻衣子
(なりた まいこ)

- 2005年4月 亀田総合病院 研修医
- 2007年4月 同 救命救急科 後期研修医
- 2010年4月 佐久総合病院 外科後期研修医
- 2013年4月 りんくう総合医療センター 救命診療科 副医長
- 2016年1月 同 救命診療科 医長
- 2023年4月～現在 同 救命診療科部長 兼危機管理室長